

カードの一部を使います。このため、作業期間中は目録カードによる蔵書検索についてご迷惑

をおかけすることになりますが、よろしく御協力のほどお願いいたします。

「研究開発室」(仮称) の設置について

附属図書館においては、昭和59年12月附属図書館商議会の決定により現行の「附属図書館調査研究室」が設置されることとなった。その設置の目的は「1.図書館資料の整備並びに図書館業務の電算化にかかる諸問題の調査研究を行う。2.貴重図書等の解題に関すること。3.図書館職員の研修計画に関すること。4.その他図書館業務の推進に関し助言を行うこと。」となっており学内教官の協力(附属図書館長が委嘱)を得て、個別案件に対処し、着実に成果を挙げてきた。

一方、昨今の図書館界を取り巻く状況の急激な変化や利用者の多様なニーズ等に的確かつ迅速に対処していくためには、今後の大学図書館の在り方を考えるとき、その一層の充実強化について真剣に検討を行わなければならないとの認識に達した。

時あたかも、大学組織に対して自らの自己点検・評価が厳しく求められている中で、文部省学術審議会学術情報部会は平成5年12月「大学

図書館機能の強化・高度化の推進について」(報告)を発表し、その中で、大学図書館が研究・開発機能を持つことの必要性和大学図書館員自身の研究・開発能力の育成の必要性について触れられた。このような中で個々の大学図書館における検討が、国立大学図書館協議会をも動かすこととなり、平成7年度の文部省等への要望の重点項目として、取り上げられたところでもある。

本学附属図書館においては、前述の調査研究室を発展改組する方向で附属図書館商議会議等での検討を進めてきた結果、まず、学内組織として発足させる方向で了承され、今後は部局長会議の議をへて、平成8年度からのスタートを待つばかりとなっている。室員は、これまでの館長委嘱から総長による委嘱となる予定である。当面、平成9年度概算要求に正式に盛り込む予定であるが、関係当局との折衝がその行方を左右することとなる。

マルチメディア端末クラスタの設置について

平成7年度に、第2期のKUINSの一環として導入されるATM-LANに伴い、附属図書館及び大型計算機センターに、マルチメディア端末クラスタが設置されることとなった。

この端末クラスタは、ATM-LANに接続されたパーソナルコンピュータであり、さらにモニターカメラ、ビデオボード等も装備されて

いる。これによって、これまで実現できなかったテレビ会議等が可能となる。

附属図書館では、20台程度の端末クラスタを一室に集めて、図書館利用者に広く利用していただく予定である。公開の際には、多くの方にATM-LANの可能性を実感していただければ幸いである。